



ニュースレター

Vol. 24

2023年8月

発行：NPO法人えん

住所：伊東市松原771-12

TEL: 0557-32-0117

FAX: 0557-32-0118

ウェブサイト：www.npo-en.org

編集：高田仁里



バックナンバーはこちら

小規模保育所えん



一人ひとり、スイカ割りに挑戦！最後は高齢者による華麗な一撃。割れたスイカをみんなで観察、昼食でスイカを食べました。（割れたスイカはデイサービスで頂きました）。



一人一人、七夕飾りを持ち帰りました。一部の飾りづくりはデイサービスの高齢者も手伝いました。



今月の土いじり！あさがおの種まきと、トマトの収穫。



7月からプール遊び！



人形を赤ちゃんに見立てお世話をしています。



藤の広場に飾るランタンの製作。



編集コラム 「富戸ケアファームプロジェクト③」



農業がなぜ地域づくりに繋がるのか？

地域づくりを考える時、建物やインフラなどの整備といったハード面と、地域文化や人間関係づくりに着目したソフト面へのアプローチに分けて考えることができます。認知症の人が安心して暮らせる地域づくりに向けて、住環境や商業施設のデザイン、交通手段の確保等ハード面の整備も重要ですが、前号で書いた通り人間関係づくりやコミュニティづくりなど、特にソフ

ト面へのアプローチが重要となります。農業のように、共通の目標（例：収穫）に向かって、作業を共同で行うと、メンバー同士の連帯感や一体感が生まれ、相互に助け合う感覚が育まれます。認知症になってできないことが増えても、できることもあるのです。農作業を通じて、認知症の人もコミュニティの中で役割を持つことができ、他のメンバーも認知症への理解をより深めていくことができるでしょう。（次号に続く）

サポートハウスえん



ギターを握って三味線の先生をやっていた時を思い出しています。



今年はミニトマトが豊作でした！



スイカ割り後にみんなでスイカを食べました。



保育園のプール開きに合わせて、廃材を使った手作りおもちゃをプレゼント。



音楽の時間！生演奏で懐メロ歌います。

富戸ケアファーム



ナスの収穫作業。



夏休みに入り、小学生も作業に参加。



農業を通じて、休憩時間中も自然に交流が生まれます。収穫の楽しみ、喜びは世代を超えて共有しやすいようです。



農作業のベテランから、子どもたちへ優しく指導。強みを活かした役割づくりへ繋がります。